

# 競技注意事項

「参加チームへの連絡」を確認し、感染防止対策を徹底すること。

## 1. 競技規則について

本大会は、2020年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項及び競技注意事項、申し合わせ事項によって実施する。なお、規則143条（TR5:規格外シューズ）改定に関しては、日本陸連の移行措置に則り競技を実施する。

## 2. 練習について

練習は係員の指示により実施する。

(1) 補助競技場での練習は、その日に競技がある選手のみとする。

1日目の朝の本トラックでの練習は、原則として棒高跳以外は、禁止とする。

2日目は、競技開始30分前まで解放するが、その日の出場選手のみとする。

(2) 投てき競技種目は投てき練習場で決められた練習時間のみ行う。

時間：招集完了90分前～招集完了時刻まで

※女子共通砲丸、女子四種砲丸の前日の調整練習は不可とする。

(3) 室内走路での練習は、原則として全て禁止する。

但し、荒天時については別途指示する。

競技場側室内走路での、走幅跳びの競技中における調整練習は認める。

(4) 補助競技場における「レーン」の使用区分及び注意事項について

ア) 周回1・2レーンは中・長距離関係。

イ) ホームストレート3・4・5・6レーンは短距離関係。

ウ) ホームストレート7・8レーンはハードル関係。

エ) 1・2コーナーからバックストレート、及び3コーナーにかけての

3・4・5・6・7・8レーンは短距離関係（バトンパスを含む）

注意>

1) JOG, 体操等はレーン外及びフィールド内とする。

2) レーン内及び芝生でのミニハードル等用具の使用を禁止する。

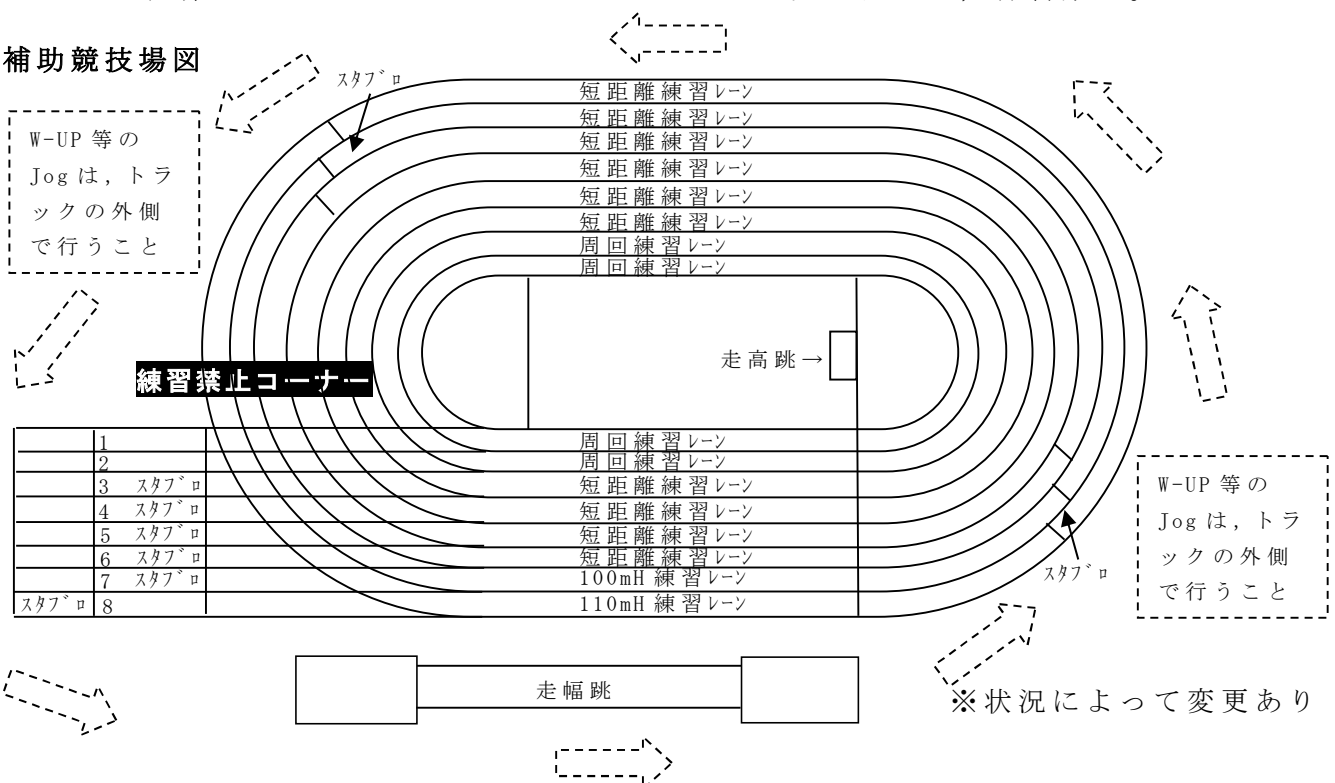
3) レーンの逆走は禁止する。

4) レーン内の歩行はできるだけさげ、立ち止まらない。

5) レーンを横断する際は、左右を確認し駆け足を原則とする。

6) 第4コーナーからホームストレートへの交点付近は、練習禁止。

### 補助競技場図



### 3. 招集及び入退場について

招集所は第1ゲート外側（100mスタート付近）に設置する。

- (1) 招集時刻は競技開始時刻を基準として下記の通りとする。  
トラック競技は20分前を招集完了とする。ただし、組数の多い予選種目は時間差を設けて招集を行う。詳しくはプログラムの競技日程で確認すること。  
フィールド競技は30分前を招集完了とする。ただし、棒高跳びは45分前に現地集合とする。  
リレーのオーダー用紙は、招集所で配布する。招集完了時刻1時間前までに招集所に提出すること。  
混成競技は四種目全て招集所で招集を行う。
- (2) 招集手順
  - ① 招集開始時刻から完了時刻までの間に招集所で、競技役員にアスリートビブスとスパイク（シューズ）、衣類及び競技場内への持ち込み物品等の確認を受ける。代理人による最終点呼は認めない。（800m以上のトラック種目は、腰Noを受け取る。）規則143条（TR5:規格外シューズ）改定に伴い、レースにて使用するシューズのソールの厚さを確認する。
  - ② 最終点呼後、各自でトラックのスタート地点、フィールドはピットに移動する。
- (3) 招集の注意事項
  - ① 出場すべき競技種目を欠場する場合は、招集完了時刻前までに招集所の競技者係に欠場届けを提出する。
  - ② 招集完了時刻に遅れた場合、競技者は棄権したものとして処理される。
- (4) 入退場は係員の指示に従う。競技が終了した競技者は、バックスタンド側ダグアウトを通り、全て第4ゲートより退場する。

### 4. アスリートビブスについて

各競技者は、プログラムに記載された番号と同じアスリートビブス（20cm×24cm）を、ユニフォームの胸部と背部につける。男子は黒字、女子は赤字とする。

- (1) 跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部どちらか片方でもよい。
- (2) 800m以上の中・長距離の競技に出場する競技者は腰ナンバー標識（シールタイプ）をパンツの右側後方につける。腰ナンバー標識は招集所で配布する。

### 5. 競技運営について

本大会は下記の主な留意事項に基づいて運営する。

- (1) 競技運営上、競技日程及びピットを変更することがある。
- (2) トラック及びフィールド内にはその競技を行う競技者並びに役員（審判および該当補助員）以外は立ち入ることはできない。フィールド競技はコーチングエリアを設ける。競技者とコーチがコミュニケーションをとる場合のみとするので、エリア内に常駐しないこと。
- (3) 競技者がレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の電子機器を競技場内で使用しての助力は許されない。
- (4) トラック競技の着順及び計時は原則として写真判定で行う。
- (5) タイムにより次のラウンドの出場者を決める場合、写真判定主任が同記録者の写真を拡大して、0.001秒単位の時間を判定して進出者を決める。それでも決められないときは当該競技者の抽選とする。
- (6) セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走り、他の競技者の妨害をしない。
- (7) 3000mにおけるスタートは参加人数により2グループに分けて行う。また、天候により、給水を行う。
- (8) リレー競技におけるチームの編成は次の通りである。
  - ① リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。
  - ② どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。

- ③最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。
  - ④交代とは一度出場した競技者が他の競技者と代わることであり、最初のラウンドにおいてリレーに申し込んでいない競技者が出場する場合は交代とはみなさない。
  - ⑤前のラウンドに出場した競技者が一度他の競技者と代わり、再びリレーチームに戻る場合は、新たな交代競技者数には加算しない。
- (9) リレー競技においてはチームの出場者は同系色のユニフォームを着用するものとする。
- (10) 4×100mR競技における第2, 第3, 第4走者は自チームで用意する最大50mm×400mmの粘着テープをマーカーとして1ヶ所使用することができる。尚、競技終了後、使用したマーカーは責任をもって取り除くこと。
- (11) フィールド競技における競技場内での練習は審判員の指示により行う。
- (12) 走幅跳び、棒高跳びに出場する競技者は助走路の外側に主催者の準備したマーカーを2個までおくことができる。
- (13) 棒高跳びに出場する競技者は支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。
- (14) 混成競技では1種目でもスタートしなかったか、また、1回も試技をしなかったときは、それ以降の種目に参加することは許されず、競技を棄権したものとみなされる。
- (15) 各レースで不正スタートは、混成競技を除き、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。混成競技は、不正スタートを2回目以降に行った選手が失格となる。スタートの合図については英語で行う。  
 ※スタート時の不適切行為に関しては審判長によって警告「イエローカード」を与えられることがある。2枚の「イエローカード」の提示を受けた競技者には「レッドカード」が提示され、当該種目のみを失格とする。ただし、競技会からは除外しない。

## 6. 走高跳、棒高跳決勝におけるバーの上げ方について

種目	性別	競技	練習
走高跳	男	1m35 - 40 - 45 - 50 (53-56-59-61...) 以後3cmきざみ	1m30 1m50
	女	1m25 - 30 - 35 - 38 (41-44-47-50...) 以後3cmきざみ	1m20 1m35
四種競技 走高跳	男	1m30 - 35 - 40 - 45 (48-51-54-57...) 以後3cmきざみ	1m25 1m50
	女	1m15 - 20 - 25 (28-31-34-37...) 以後3cmきざみ	1m15 1m30
棒高跳	男	2m10 - 20 - 30 以後10cmきざみ	2m00 2m80

- (1) 天候その他の関係で変更することがある。
- (2) 第1位を決めるためのバーの上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cm刻みとする。
- (3) 走高跳、棒高跳の練習の高さは、希望により2段階で行う。
- (4) 競技場設置の滑り止め(炭酸マグネシウム)は、感染防止のため共用しないので、必要な競技者は、各自で準備すること。

## 7. スパイク(シューズ)の制限

- (1) 本競技場におけるスパイクピンの数は11本以内とする。また、スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳については12mm以内とし先端の直径は4mm以内でなければならない。
- (2) WAの定める「規格外シューズ」を使用した競技者について、リザルトに「TR5」を付記して発表する。(公認記録申請)

## 8. 抗議について

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、その種目の正式発表後30分以内に監督

が直接審判長に口頭で申し出なければならない。

- (2) 次のラウンドが行われる競技種目ではその結果が正式に通告されてから15分以内に申し出なければならない。
- (3) 裁定に不服の場合は委託金(1万円)を添え、総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。なお、ジュリーの裁定が最終決定となる。委託金は、抗議が認められない場合は没収される。

## 9. 学校対抗得点について

学校対抗得点は、1位8点、2位7点・・・8位1点とする。ただし、1年男子砲丸投はオープン種目とし、学校対抗得点には含めない。

## 10. 表彰について

各種目の8位まで賞状を授与する。(1年男子砲丸投も含む)決勝終了後直ちに入賞者は表彰者控場所に集合すること。※表彰台を使用しての表彰式は、行わない。

## 11. その他

- (1) 会場への入場時と帰宅時にはチーム代表者が受付にて「体調管理チェックシート」等の確認を受けること。確認がない場合は、参加を認めない。
- (2) 応急処置、その他健康上の問題が生じた場合は、本部に連絡すること。救護本部はスタジアム1階医務室に設置する。応急処置は行うが、以後の責任は負わない。
- (3) 商標について  
商標などの規定については、「競技会における広告及び展示物に関する規定」を遵守すること。これに違反した場合は、主催者で処理する。
- (4) 応援について
  - ① 感染防止のため、スタンドからの応援を一切禁止とする。
  - ② 利用できるスタンドは、メインスタンドおよびサイドスタンドのみとする。バックスタンドは立入禁止とするが、棒高跳の競技中のみコーチングエリアを使用可とする。スタンドで観戦する際は、座席の前後左右を空けて観戦すること。
  - ③ 本大会にエントリーしていない生徒(1,2年生の部員)に関しては、各学校の判断で2日間とも来場可とします。各学校の責任において対応すること。
- (5) 応援横幕・のぼり旗の設置について
  - ① メインスタンド・バックスタンド・サイドスタンド等への設置は禁止する。
  - ② 待機場所等においても、設置は禁止する。
- (6) 室内走路及び通路の利用を禁止する。
- (7) 各校の待機場所として3階コンコースを利用し、シートを固定したり壁に物を貼ったりする時は、粘着力の弱いテープ等で貼り付ける(ガムテープの使用は厳禁とする)。  
待機場所では、「ソーシャルディスタンス」を十分に確保し、「3密」を避けるよう、お互いに協力すること。
- (8) ゴミは原則として各校で持ち帰ること。
- (9) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので各自持ち物や貴重品の管理に十分注意する。
- (10) 本部は競技運営室6とする。不明な点は、大会本部に問い合わせること。
- (11) 大会終了後、2020~2021年度県中体連強化事業強化指定選手の選考を行います。
  - ◎ 選考の基準
    - ・ 今年度の実績
    - ・ 普段の練習環境や取り組みの姿勢
    - ・ 将来性
    - ・ 今大会の結果 など
  - ※ 選考された選手については、強化指定選手を受けるかどうか顧問の先生を通して打診し、決定後、各学校に正式に通知します。